

ボランティアの心

現在、小松島市では、七十三団体約一、七七〇人あまり(令和二年二月現在、小松島市社会福祉協議会把握数。個人ボランティアや活動の一部でボランティア活動をしている団体含む)の市民が、ボランティアとして活動されています。さらに、毎年六月に実施されているリフレッシュ瀬戸内(約千人が参加)や八月のチャリティ阿波踊り、町内会や学校などでのボランティアを含めると、多くの市



民がボランティア活動に参加していると言えるでしょう。

地域福祉の分野では、小学校区ごとに、住民の有志や民生委員児童委員、婦人会員等で組織された十一の地区社会福祉協議会が、従来の高齢者へのゆるやかな見守り等の福祉活動や、平成十七年より開始した小学校児童の登下校時の見守り活動で犯罪の抑止とともに、小学児童との交流を深めています。

介護予防の分野でも、地域包括支援センターで養成した、介護予防サポーターは百三十人を超え、脳トレ教室の運営や介護予防事業の手伝いなどを行っています。

特に介護予防サポーターが主体となり、地域の高齢者の通いの場として開催している、高齢者サロンは、市内に十カ所あり、体操や歌、小物作り、お茶会、おしゃべりなど様々なプログラムで高齢者とサポーターが楽しい時間を過ごされています。

また、小松島市社会福祉協議会が開催した傾聴ボランティア養成講習会の修了者で結成した傾聴ボランティアくつろぎは、高齢者や障がい者施設を訪問して入居者の話しを聴いたり、おしゃべりルームで来談者への傾聴活動を行っています。

その他には、市立図書館で乳幼児や保護者に向けて読み聞かせ活動するグループや、高齢者施設等を訪

問してレクリエーションや音楽で交流するグループ等が特技や趣味を生かして活動されています。高校生と共働して環境活動に取り組むNPO法人や二十年を超えて障がい児者を支援する活動に取り組む団体もあります。

また、毎年のように全国各地で起こる災害に、小松島市からも災害ボ



ランティアとして被災地に駆けつける方や義援金を送られる方もおられます。

小松島市は、日本のボランティアセンターの先駆けである善意銀行発祥の地です。少子高齢化、人口減少でボランティア人口も減少傾向にあります。ですが、助け合いの心、ボランティアアメインドは市民に根付き、多様な活動を行っています。

みんなでまちを守る

自治会を基盤とした自主防災組織が次々と結成され、「自分たちのまちは自分で守る」を合言葉に、消火訓練をはじめ、炊き出し訓練や救命救急訓練など様々な防災活動を行っています。

Many local residents in different volunteer groups, some watching over senior citizens and children, others reading picture books for infants or teaching foreigners Japanese language and its customs. The volunteer groups were created one after another in the fields of welfare, education, medical service and international exchange. Participants apply and share their skills and experiences. This spread of volunteering in our community promotes one of our values, 'people-focused' which means 'local development by/for the local people'.